

## 海外メンタルヘルスの現場から II

### (45) 駐在員のギャンブル依存症

シンガポール日本人会クリニック

医師 日暮 真由美

ギャンブル依存に関する相談をたまに受けることがある。シンガポールには日本のようなパチンコ店は街中にはないが、以前から宝くじはスーパーなどでも手軽に売られていて、日本人でもはまっている人は時々いたように思う。しかし、シンガポールにカジノがオープンした 2010 年からは変わった。それ以来、在住日本人の中にギャンブル依存症という病気が堂々と加わったのは間違いないだろう。

ちょうど 1 年前に、日本の厚生労働省が日本国内の成人の 2.7% がギャンブル依存症であるという統計を発表した。シンガポール在住日本人の数は 3 万数千人とされているので、仮に少なく見積もって、そのうちの 2 分の 1 が成人だとしたら、なんと百人単位の日本人在住者が何らかのギャンブル依存症であることになる。そのうえ、シンガポールのカジノはタクシーや地下鉄で誰でもお手軽にアクセスできる。日本のギャンブルと言え、パチンコや競馬、競輪など、おしゃれと表現するにはちょっと難しいイメージもあるが、当地のカジノは超有名マリーナベイサンズホテルと一体となつてとても華やかでゴージャス、はずせない観光地でもあり、行ってちょっと遊ぶというのがステイタスという雰囲気もある。そういった魅力も大きく、カジノ依存になっている日本人はもっと多いのかもしれない。実際、日本国内のようにパチンコや競馬にはまっているおじさん層だけでなく、もっとずっと若い、時には 20 代や 30 代の若い世代の男性だけでなく女性からも、ギャンブル依存の相談を受けることがある。そして、当地の日本人の平均所得が日本国内よりはおそろくずいぶん高いこともあり、つぎ込んでいる金額も期間の短さに対してかなり高額である。

私は心療内科であり、残念ながら依存症は専門外だ。シンガポールの精神科病院の依存症治療プログラムを紹介しようとしても、英語のプログラムの遂行は困難な日本人が多いので、当地では手立てがない。人生を台無しにする前に駐在をすぐにでも中止して日本で治療することを必死に勧めるしかない。駐在赴任前に駐在員のセルフケア教育を施している企業も多いと思うが、海を渡る前にギャンブル依存症への警鐘も鳴らして頂くことを、ぜひお願いできれば幸いである。